日本語教育メディア･システム開発部門報告

村 上 京 子 ・ 石 崎 俊 子 ・ 佐 藤 弘 毅

日本語教育メディア・システム開発部門（JEMS）では，2006年度に以下の活動を行った。

１．現代日本語コース中級聴解（IJLC）CD-ROM および Web の運用
２．日本語初級文法・漢字オンライン学習教材（WebCMJ）の改訂
３．オンライン日本語コースの運営

１．現代日本語コース中級聴解（IJLC）CD-ROM および Web の運用

JEMS では2005年，現代日本語コース中級聴解（IJLC）の CD-ROM 版を開発した。この教材は名古屋大学日本語教育研究グループによって作成され広く日本語学習者に使われている『現代日本語コース中級Ⅰ・Ⅱ』（名古屋大学出版会）の聴解のワークシート３冊の紙媒体及び音声テープをもとに開発された。46セクションと日本語聴解教材の中では稀に見る膨大な学習量を有しており，更に各セクションは10段階（０．このセクションについて，１．背景知識，２．単語，３．要点，４．要点練習，５．タスク，６．内容質問，７．復習，８．要点練習，９．スクリプト，10．成績）に分かれ，学習者が無理なく段階を経て着実に学習していけるように構成されている。学習者自身が自分の聴解力を試す問題が多様揃えてあり，単純で飽きられがちな語学学習の支援を画期的なものにしている。学習者は問題に解答した後，即座に自分の間違いをチェックし，正答を確認できる。更に，問題に解答する度に成績が履歴に残り，自分の成績を簡単に把握できると同時に間違った箇所だけ問題をやり直したり，１ページだけをやり直したりなど選択できる工夫がなされている。

１）活用状況

2006年４月より名古屋大学留学生センターで日本語中級聴解のコースの受講者に現代日本語コース中級聴解（IJLC）の CD-ROM を無料で配布し，授業で活用した。授業に導入したクラスは SJ201, SJ202, IJ211, IJ212及び日韓コースである。その中で SJ201と IJ212では４回から５回授業中に教材を実際に利用した。プロジェクタで教材を大きく映し出して授業を進めたり，学習者がハンズオンで各々のコンピュータで学習したり，グループで共同で利用したりと様々な授業方法を試みた。学習者のアンケートと実際の授業観察により効果的な利用方法が明らかになりつつある。2006年10月の受講者30人に対し学習者がどのセクションをどのように利用したいか調査するアンケートを行った。結果，各セクションの使用形態に対する学習者の要望がはっきりと分かれていることが明らかになった。代表的なものとしては説明の多い要点のセクションは教師に授業中に利用して欲しい割合が多いのに比べ，自習形式で利用したい割合が大幅に少ないことがあげられる。又，聞き取り穴埋め問題が中心である復習のセクションではその反対の結果が出た。これはまさに授業で教師が説明をし，コンピュータで習得をするという最近奨励されている「ブレンディッド・ラーニング」の流れに当てはまると言える。今後は，これらの結果を分析し，教師用のマニュアルの作成に役立てたいと考えている。

２）Web の公開と課金

現代日本語コース中級聴解（IJLC）の Web 版を開発するとともに課金制度を整え，２月13日より課金を開始した。クレジットカードによる課金制度は名古屋大学では最初の試みである。まずは課金システム上のセキュリティサポートを情報連携統括本部情報戦略室と相談の上，情報企画課の協力を得て決済システムを開発，日本語及び英語の課金ページを作成するという流れで作業を行った。購入後に購入者には自動的に ID とパスワードが送られ，１年間利用できる仕組みである。

・現代日本語コース中級聴解（IJLC）Web
URL：http://opal.ecis.nagoya-u.ac.jp/~ijlc/

ページの左方のEnterボタンより無料で７セクション試すことができ，右方のPurchaseボタンより購入が可能である。

３）今後の予定

引き続き留学生センターの日本語中級聴解コースの受講者に利用し，問題点を探ると共に前記の教師用マニュアルを作成する予定である。

２．日本語初級文法・漢字オンライン学習教材（WebCMJ）の改訂と運営

WebCMJは，名古屋大学日本語教育研究グループによる初級日本語教科書『A Course in Modern Japanese（改訂版）Vol. 1 & 2』（名古屋大学出版会，2002）に基づいて開発された，Web上で日本語初級レベルの文法事項および日本語初級で扱われる漢字300字の読みが反復練習できるコンピュータ教材である。1998年に初版が開発され，2002年の教科書の改訂に併せて問題・形式・デザイン等が全面見直され，現在に至っている。

・WebCMJ 文法・多言語版
URL：http://opal.ecis.nagoya-u.ac.jp/~webcmjml/
・WebCMJ 漢字版
URL：http://opal.ecis.nagoya-u.ac.jp/~webcmjk/

WebCMJを使用するための説明の文章や問題指示文は，2003年の時点までは英語でのみ表記されていたが，日本語学習者の世界分布や英語を苦手とする学習者の利便性を考慮して，韓国語，中国語（簡体字），中国語（繁体字），タイ語，スペイン語によるWebCMJ多言語版の開発が2004年度から2005年度にかけて行なわれた。

１）インドネシア語およびポルトガル語版の開発

東南アジアおよび中南米出身の日本語学習者の増加を背景に，それぞれの母語であるタイ語，インドネシア語，スペイン語，ポルトガル語，等各語版の開発が望まれてきた。2005年度のタイ語版とスペイン語版の開発に引き続き，2006年度はインドネシア語版とポルトガル語版を開発した。インドネシア語，ポルトガル語のそれぞれを母語とする留学生に，WebCMJを使用するための説明の文章や問題指示文の翻訳を依頼し，訳された文章をWeb上に掲載した。

・WebCMJ（インドネシア語版）
URL：http://opal.ecis.nagoya-u.ac.jp/~webcmjml/index.id.html
・WebCMJ（ポルトガル語版）
URL：http://opal.ecis.nagoya-u.ac.jp/~webcmjml/index.pt.html

２）活用状況

WebCMJは，クラス単位で教師が学習者の成績を管理できる機能も組み込まれているため，授業での運用も可能となる。今年度は，留学生センターで開講している初級日本語研修コース（EJ），全学日本語プログラムの初級コース（SJ101，SJ102，IJ111，IJ112）の各授業においてWebCMJを利用してもらうため，受講者のIDとパスワードを発行した。また，教師にその利用方法を案内した。各授業では，WebCMJの該当する課を宿題として課し，復習用の教材として活用された。EJでは，WebCMJによる演習の時間が設けられた。SJおよびIJでも，WebCMJの利用方法説明のための時間が設けられた。各授業には，必要に応じて，JEMSの教員が補助要員として参加した。利用したEJコースの受講者を対象としたアンケートでは，ほぼ全員が「WebCMJは役に立つ」と回答し，特に授業に取り入れたことに対する評価が高かった。

アクセスログの分析より，2006年度１年間の総アクセス数（ページ閲覧成功件数，PV）は694,268件で，１日あたりの平均アクセス数は1,902件であった。昨年度の1,548件に比べると増加傾向にある。必ずしもすべてのアクセスが教材利用のためであったとは限らないが，アクセス元のドメイン名の分析より学外の日本国内はもとより海外からのアクセスも多数見られ，国内外の日本語学習者に広く活用されていることがわかった。

３）今後の予定

引き続き，多言語版として要望があるベトナム語およびロシア語版の追加を予定している。また，WebCMJ漢字版の多言語化や読み以外の練習問題の開発等も考えている。授業を担当する教師からは，成績表示機能の改善や日本語入力支援の要望が出されており，検討中である。さらに，海外の学習者・教師からの声にも留意し，できるだけ多くの学習者の便宜を図っていく予定である。

３．オンライン日本語コースの運営

2006年度も前期及び後期にWebCT Vista3を使ってオンライン日本語コースを実施した。中上級向けの「読解・作文コース」は2004年度前期から開始し，その後問題文や問題形式等改善がなされてきた。初中級学習者向けの「漢字100コース」「漢字300コース」「漢字1000コース」の４コースは2005年度からスタートし，２年目の開講となる。登録した学習者にはメールによるコースの進め方のオリエンテーションを行い，ID，パスワードを発行した。オフィスアワーには学習者の相談に応じた。

１）オンライン読解・作文コース

中上級向けの「読解･作文コース」は14回分の読解･作文問題セクションが含まれている。３レベルの難易度に分かれ，受講者はどの問題から解答してもよいが期間内（前期は７月末，後期は１月末）に10セクション以上で60％以上の成績を取ることが修了の条件となっている。各回は600～800字の文章を読み，文字・語彙・表現・文意を問う問題に解答し，最後に400字程度の問題文に関連した作文が課せられる問題項目から成っている。作文以外の問題には自動採点がされ即時に成績が表示される。作文についてはその日のうちに担当の日本語教師により４つの観点（正確さ，語彙・表現の多様性，文のわかりやすさ，内容）から採点される。希望者には添削した作文が送り返される。オフィスアワーには作文の指導などが個別に行われた。

前期は，登録者28人に対し，学習したもの16名，修了条件に到達したもの８名であった。後期は登録者25名に対し13名が受講し，６名が修了認定を受けた。

コース終了後にアンケートと面接による意見聴取を行った。結果は下記の通りである。

◆アンケート回答者：５名

質問：オンライン読解・作文コースについて満足していますか。

１：満足　2

２：やや満足　2

理由（多い）（よく練習ができた）

３：どちらとも言えない　0

４：やや不満足　0

５：不満足　1

理由（水準が高すぎて，テーマがおもしろくなかったです）

質問：オンライン読解・作文コースについて，よかった点あるいは問題点があれば，自由に書いてください。

・作文を毎週直してくださって，たいへん役に立った。

・問題が多すぎ

・よく練習ができた

◆面接による意見聴取：６名

・毎週決まった時間にやって全部終わった。レベルとしては，自分にはちょうどよかったが，たまにあまり興味が持てない内容の読解文もあった。もう少し種類が多かった方が選べてよかったのかもしれない。全部やるのはたいへんなので選んでやれるようにすればよい。

・全体としてはよかったと思う。作文を書くときアイディアが浮かばないものもあった。たとえばスポーツがむかし生活技術だったという話など。書きやすいテーマならあまり時間を書けずに書け，添削してもらえてよかった。

・漢字の読み方を書く問題は，辞書を引きながらやるので，採点は意味ないと思う。全部できても，すぐに忘れてしまうし。

・文の意味を聞く問題は良かったと思う。だいたいできたし，できなかったのはすぐに読み返して，自分が間違っていたことを確かめられて，役に立った。

・毎週作文を書くのは結構たいへんだった。何を書くかよくわからないものもあったし。例えば，あいさつの作文など。後でやろうと思っていたのに，忘れてしまった。

・結構たくさん作文を書いたので，書くことがあまりたいへんじゃなくなってきた。慣れてきた。直してもらったのを見てもう一度やろうと思っていたが，時間がなくて終わってしまった。

・いつでもできるのはいい。自分の部屋でやった。もっといろいろな問題があったほうがいい。パターンが決まってしまって，少し飽きた。

・自分には読む文が難しすぎた。自分の専門に関係した文を読みたかった。

2）オンライン漢字コース

2006年度の登録者数43人のうち実際にコースに参加した学習者は19人，そのうち10回の課題を最後まですべて解答して終了した学習者は10人であった。

「漢字1000コース」の登録者数が９人と圧倒的に多かった。「漢字300コース」は４人，「漢字100コース」は６人だった。修了者は「漢字1000コース」の６人，「漢字300コース」は３人，「漢字100コース」は１人だった。

3）今後の予定

現在利用しているプラットフォーム（WebCT Vista3）の契約が2007年上旬に切れるため，それに変わるSAKAIというプラットフォームに乗り換える必要がある。新しいプラットフォームなので，教材が移行された後，修正が予想される。また，受講者に配布する利用方法のマニュアルも作成し直す必要があると思われる。